資料 1-6

植生調査結果の記述について

準備書 596 ページ、植生調査結果の記述を、以下のように修正します。

e. 調査結果

現存植生図を第 8-1-4-4 図（1）～（3）に示した。群落調査は平成 27 年 11 月までで 16 地点で実施した。

相観植生の凡例の内容を第 8-1-4-5 表(1)、(2)に示す。（　）内の数字は該当する群落調査票番号である。

以下、調査地点ごとに植生の概要を示す。

地点①

調査範囲の東側から南東側に姫川と小滝川が流れ、川に落ち込む急斜面とその上の山頂・山腹・山麓緩斜面からなる。姫川周辺は氾濫原の無植生地と草地、その他は多くが樹林地で、人家や集落跡周辺に農地と、放棄農地に成立したヨシ草地、ススキ草地が分布する。樹林地は全体の約 7 割を占め、その半分がスギ人工林である。スギ人工林は立地条件や植栽からの歳月により、樹高が 15m を超える高木林から 2m 前後の疎林まで様々なタイプがみられる。樹林地の残り半分の中で、急斜面や岩塊斜面にはケヤキが高木層を優占し、低木としてキャラボクが出現する高木林がみられる。緩斜面にはコナラ、ミズナラ、ブナが優占する高木林がみられ、林床にはユキツバキ（ユキバタツバキ含む)、チゴユリ、ヒメアオキが出現することから、このコナラ林は伐採等の影響を受けたブナ二次林であると考えられる。

地点②

調査範囲の北西から南東にかけて姫川が流れ、川に向かう急斜面や広い谷状の緩斜面からなる。中心付近には JR 大糸線、第六発電所があり、広い人工地盤の無植生地がある。姫川周辺は氾濫原の無植生地と草地で、一部には床固めが露出した部分がある。緩斜面の多くがスギ人工林で、よく生育した高木林である。姫川に面した急斜面にはケヤキ林が多い。調査範囲の北側は比較的地盤が安定しているようで、コナラ林が多く、その中にはウラジロガシ等の常緑広葉樹が点々とみられた。姫川左岸側にみられるススキ草地は林道沿いの路傍植生と、固定した法面の周辺の草地である。姫川右岸側のススキ草地はかつての石切場跡で、ススキとクズが広がり、点々と樹木が進入している。

地点③

調査範囲の北東から南へ姫川が流れている。左岸側は比較的傾斜が緩やかで、集落と小学校跡地がある。ほとんどをスギ人工林が占め、集落周辺には放棄水田に成立したヨシ草地とヤナギ林、谷沿いの平坦面にススキ草地がある。右岸側は標高415m のピークをもつ釣り鐘状の岩塊とそれに続く斜面からなり、植生を投影して示す図上ではほとんどをコナラ林が占めるが、実際にはほぼ垂直に切り立った露岩が姫川に迫っている。露岩にはイワヒバ、ヒメウツギ等の独特の植物が生育する。右岸側の南部分は姫川温泉周辺の人家、農地、放棄農地のススキ草地があり、点在するコナラ林も樹高が低いところが多い。